

HART Newsletter

Vol.4
2000.12

〒730-0051 広島市中区大手町5丁目7番10号
アグシーズビル3F TEL 082-244-3866
FAX 082-244-3864
http://www.enjoy.ne.jp/~hart/
E-mail :hart@enjoy.ne.jp

広島HARTクリニック創立10周年を祝う

サンディエゴ市Hotel del Coronadoにて10月25日



広島HARTクリニックは、平成2年10月16日に高橋克彦院長が高橋産婦人科として現在の場所に開院して以来10年が過ぎました。それを記念したパーティーが、今回出席したアメリカ生殖医学会（10月21日～26日）が開催されたカリフォルニア州サンディエゴ市にあるHotel del Coronadoで10月25日の夜行われました。アメリカの地で記念パーティーを開催するに当たり高橋院長は、医療は本来ボーダレスであり、生殖補助医療もそうでなければならず、従ってHARTクリニックの医療技術は世界のトップレベルであるべきという信念から、この10年間日本国内はもちろん、海外の多くの先生にお世話になったので、お礼のためにもアメリカの学会中に記念パーティーを催したいとのことでした。



あいさつに立つ高橋院長と高橋智子さん

Hotel del Coronadoは1887年に建てられ、当時より電気が使用されたという歴史にも由緒あるホテルで、太平洋に面する海岸に位置し、何度もハリウッド映画の舞台になっただけに、ホテル及び周辺の景観は素晴らしい所です。パーティーはホテルの庭園で行われました。学会中の忙しい合間にも関わらず、約80名の参加者がありました。東海大学産婦人科牧野恒久教授や東邦大学産婦人科久保春海教授夫妻をはじめ、セントマザー産婦人科田中温院長、大阪IVFクリニック森本義晴院長等日本における生殖医療の指導者の先生方、アメリカのコロンビア大学Cha教授、カンサス大学Keel教授およびそのスタッフ、地元サンディエゴから不妊症専門心理学者のDiamond先生夫妻など、医師、生殖技術者、カウンセラー、看護婦の方々が来賓されました。

高橋院長の長女で、サンディエゴ市でカウンセラーをしている高橋智子さんの司会で午後7時よりディナーが始まりました。挨拶に立った高橋院長は、過去10年間の生殖医療技術の進歩にふれ、新しい技術であった顕微授精法、透明帯開孔法（AHA法）、胚盤胞移植、簡易凍結法であるVitrification法などの臨床応用をHARTクリニックが常に他に先駆けて実施し、その結果1400人を超える赤ちゃんが誕生したことを報告すると、参加者から大きな拍手があげられました。続いて東海大学産婦人科牧野恒久教授の祝辞と乾杯の後、弦楽四重奏の音楽を聴きながらのアメリカンディナーとなりました。好天にも恵まれ、波の音と日本語、英語、韓国語、スペイン語の混ざった会話を聞きながらの3時間余りのパーティーでした。

お別れの時刻に、3機のアメリカ海軍艦載機が会場の真上をあたかも10周年記念を祝福するかのように超低空で飛び去ったのが印象的でした。



パーティーが開かれたHotel del Coronado

東京HARTクリニック 渋谷にオープン

2000年12月1日

かねてから準備中であった東京HARTクリニックが東京都渋谷区で平成12年12月1日に開院しました。院長はローズレディースクリニック等々力前院長、岡親弘先生で、広島HARTクリニック高橋克彦院長の協力の下で不妊症治療専門クリニックとしてスタートしました。

HARTクリニックの医療を東京でとの希望される患者さんが多く、従来のローズレディースクリニック等々力では十分な対応ができなくなり、新規開院となりました。

岡院長は、“HARTクリニック10年の経験と知識、および最新の医療施設と技術を結集したクリニックが完成しました。必ず患者さんの期待に応えられるようなクリニックにするつもりです。さらに東京という地の利を生かし、今後とも海外の生殖医療先進施設との提携をさらに広げ、わが国の生殖医療の分野に貢献したいと考えています。”と抱負を述べました。クリニックの詳細は次号で紹介します。



診察時間	月	火	水	木	金	土
9:00~12:00	○	○	○	○	○	○
15:00~18:00	○	○	/	○	○	/

日曜・祝祭日は休診

東京HARTクリニック

住所：東京都渋谷区渋谷東1-22-2

TEL：03-5766-3660 FAX：03-5766-3650

E-mail：tokyohart@syd.odn.ne.jp

広島HARTクリニック院長高橋先生は月・火曜日に来院され、診察致します。



▲▶実習中の様子



HARTワークショップⅡ開催される

昨年に続き本年も11月12日に大阪HARTクリニックにおいて、簡易胚凍結法のワークショップが行われました。Vitrification法と呼ばれるこの方法は、広島HARTクリニックが世界に先駆けて臨床应用到に成功した方法（1997年）で、従来法に比べて簡単かつ短時間で、妊娠率は従来法と変わらないという成績が出ています。過去1年の海外の論文や学会発表においても、胚凍結はVitrification法が主流となってきています。昨年出席できなかった施設の医師や技師を中心に全国より25名の参加があり、昨年同様HARTクリニックの技師の指導の下に、各自マウスの胚を使って3時間に及ぶ実習を行い、全員自分で凍結、解凍に成功されるまでになりました。今回はメーカーよりのご好意で、凍結、解凍用のキットが参加者全員にプレゼントされたため、明日からすぐに実施してみたいとの声もありました。また昨年度も参加された長崎市の岡本ウイメンズクリニックの浜口志穂技師より、昨年実習したVitrification法ですでに妊娠された患者さんがおられるとの報告を聞き、スタッフ一同感激しました。21世紀に、この方法で多くの赤ちゃんが誕生することを期待して解散しました。

HARTグループでは、世界の最先端の医療技術をいち早く取り入れ、またHARTの技術を世界に発信する場として海外の学会にも積極的に参加しています。その中でも最も重要な学会のひとつである第56回アメリカ生殖医学会総会が2000年10月21日～26日にアメリカのサンディエゴ市で開催され、HARTグループからも総勢14名が参加しました。今回はその様子をご報告します。

アメリカ生殖医学会・Annual Meeting参加の感想

広島HARTクリニック 副院長 向田哲規



このアメリカ生殖医学会は不妊症に携わる医師、看護婦、検査技師またはその方面の研究を行う科学者にとって年に1回行われる最大の知識吸収および情報交換の場です。3年に1度開催される世界体外受精会議などと同様に、多くの先端技術やそれに関係する基礎的研究成果の発表が行われます。この学会において自らの病院、クリニック、研究所で行った臨床成績や研究結果を報告できる事は、レベルが世界水準にある証拠となります。私はアメリカに住んでいた1991年より毎年参加しており、この学会で得た知識がなければ今の自分はないのではというぐらい影響を受けています。

さて、6日間かけて行われるこの学会は、毎年卒業教育プログラムからはじまります。そこでは各分野で実際に活躍している多くの医師や研究者が講師となり、最先端の知識を吸収できるとても教育的な内容です。私は今回臨床的な側面が多いコースを受講し、臨床システムの確立、治療方針の決定、その効果について多くのことを学びました。その後始まる主要講演、抄録発表では21世紀に向けて最新不妊症治療技術はどのように進んでいくかについて、数多くのとても有用な報告がありました。

ここでの発表はすべて英語なので、アメリカに6年間留学した私も事前の準備がかなり必要でした。しかし英語と格闘しながらも明日からの臨床に役立つ十分な知識を仕入れることができました。HARTクリニックとしては、①ベルギーのグループと共同研究している新しい凍結方法について、②胚盤胞移植を行う際の培養条件の検討について、③子宮鏡の着床における効果、以上3題を発表し、多くの医師や研究者と討論する機会を持ちました。また学会の前後にロサンゼルスやサンディエゴにある不妊症治療施設を見学し、アメリカにおける不妊症治療の現状や問題点に関しての意見交換を行いました。同時に、HARTクリニックにおける治療は世界最新標準であると再認識し、今後も絶えず最新の情報を吸収し向上していく必要性を感じました。

アメリカ生殖医学会に参加して

不妊症専門カウンセラー 平山史朗

アメリカ生殖医学会には、カウンセラー、精神科医を中心とした精神保健専門家グループが約15年前から組織されており、私も今回このグループのセッション（発表、シンポジウム等）に参加しました。日本からの参加者が私だけだったということもあり、アジア人、日本人夫婦の不妊症治療に対する考え方についての質問をアメリカのカウンセラー達から受け、その関心の高さに驚きました。グループとして今回印象的だったのは、討議されていた中心的な話題が、不妊症治療で妊娠・出産した後の家族形成や親子関係の問題となっていたことでした。治療中の患者さんの心理やサポートに関してはこれまでの研究により共通認識がある程度確立し、治療後の臨床的な問題に関心が移っているようで、不妊症患者さんに対する心理的ケアの

先進国の現状を垣間見た思いがしました。また小グループでの討論では不妊症カウンセリングの統合的な教科書を作られたミネソタ大学助教授Burns博士ら不妊症カウンセリングの第一人者の先生方と親交を深めることができたのも得がたい経験でした。

個人的には、開催地サンディエゴが約2年半前に不妊症カウンセリングの勉強をするために私が滞在した思い出深い街であり、またその時指導を受けたCSPP教授Diamond博士らと感激の再会もできた有意義な日々となりました。

このような諸外国の先達からの薫陶を受ける貴重な機会を得たことで、これから日本の患者さんに合った、日本の文化的要因も考慮に入れたオリジナルの不妊症カウンセリングを確立、発展させていかなければならないとの決意を新たに、帰国の途につきました。

アメリカ生殖医学会とSHARP不妊センター見学の感想

広島HARTクリニック 看護婦主任 出口美寿恵



SHARP不妊センターにて

アメリカ生殖医学会には看護婦の専門部会があり、私達看護婦（広島、大阪HARTクリニックから計4名）はそちらに参加しました。口頭発表は10題で、演題としては、注射の管理、患者指導に関する発表（日本と違いアメリカでは自己注射が認められていることによります）、IVFサイクルでのストレスについて、生殖センター内の看護チーム作りについてなどがありました。また今回は「不妊症専門看護婦の燃え尽き（Burnout）度：性格と不妊症に対する態度」

という演題で、不妊症治療に携わっている看護婦へのアンケート調査結果の発表が目を引きました。発表を聞きながら、患者さんへのサポートなどで改めて認識する事も多く、今後の業務に生かしていきたいと考えています。看護部会のセッションは会場内の雰囲気良く、司会の方が会場に来ている人に意見や感想、アドバイスを求めたりして、とてもフランクで日本の学会と違う一面がありました。

学会終了後にSHARP不妊センターを見学する機会を得ました。この病院はカリフォルニア州で一番大きく（女性センター内に不妊センターを置いている病院として）、ヘルスケアシステムでも全米のトップ100の中で8位にランクされている病院です。

当日は採卵の様子や施設の見学をしました。広いスペースで、プライバシーを考えられた工夫がされています。採卵は全身麻酔でAM7時30分から開始（どの施設でも麻酔、採卵のトラブルを考え早朝より行うようです）されていました。その後病院の医師・検査技師・看護婦と話をする時間を設けていただき体外受精のシステムやサポート、看護婦の役割など貴重な話を伺いました。そこで感じた事は、看護婦は医師と同じぐらいの専門的知識を持ち、患者さんをサポートしている事、体外受精治療に入るまでに一人一人に充分時間を取られている事でした。夫婦で納得するまで話を聞く、疑問を残さず治療に入る、また患者さん自身も遠慮する事なく質問したり、要望を言ったりする。そして納得した上で同意書にサインをして治療に入っていく。一見当たり前のようですが、日本の場合はまだ遠慮もあるせいか「先生の言われるように…」「先生が言われたので…」といった事が多いように思います。

私達看護婦はもっと患者さんにとって一番身近な存在になり治療前、治療中、治療後といった各時期にあったサポートが出来るように、患者さんに満足していただけるように頑張っていかなければいけないと感じました。

日本とアメリカでは、法律・医療システムの違い・文化・国民性・社会性など多くの違いがあり全てにおいてアメリカのシステムが良いと言うわけではありませんが、日々進歩する不妊症治療、ARTの中で最先端の医療技術を提供しながら患者さんのニーズにあったサポートを出来るように今後も努力を続けていきたいと思えます。